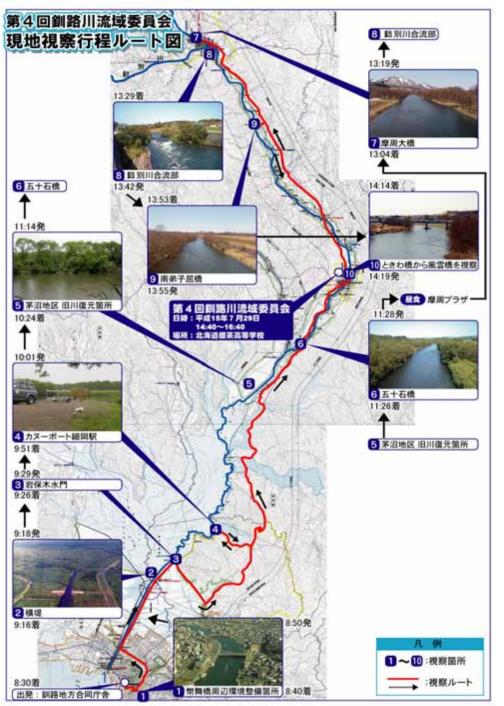


8:30 集合 釧路地方合同庁舎前		
バスで移動(約1.5km、10分)		
8:40 釧路川 幣舞橋周辺環境整備箇所 到着		
視察10分(降車し視察)	・幣舞橋周辺環境整備箇所の状況視察	P3
8:50 釧路川 幣舞橋周辺環境整備箇所 出発		
バスで移動(約11km、26分)		
9:16 横堤 到着		
視察2分(バスの中から)	・横堤の状況視察	P4 ~ P6
9:18 横堤 出発		
バスで移動(約7km、8分)		
9:26 岩保木水門 到着	出作于北阳华江油家	P7
視察3分(バスの中から)	·岩保木水門状況視察	P7
9:29 岩保木水門 出発		
バスで移動(約12km、22分) 9:51 カヌーポート細岡駅 到着		
9.51 ガメーバート細画駅 到看 視察10分(降車し視察)	・カヌーポートの利用状況視察	P8
10:01 カヌーポート細岡駅 出発	バス 小 ソ州の小川はボ	ľ °
バスで移動(約20km、23分)		
10:24 茅沼地区 旧川復元箇所 到着		
視察50分	・ ・茅沼地区 旧川復元箇所の状況視察	P9 ~ P11
11:14 茅沼地区 旧川復元箇所 出発	S S S S S S S S S S S S S S S S S S S	• • • • •
バスで移動(約7km、12分)		•
11:26 五十石橋 到着		
視察2分(徐行しバスの中から視察)	・河道内樹木の繁茂状況の視察	P12 ~ P1
11:28 五十石橋 出発		
バスで移動(約40km、50分)		
12:18 13:00 昼食·休憩 約40分	場所:弟子屈町「摩周プラザ」	
バスで移動(約3km、4分)		
13:04 摩周大橋 到着(道の駅 摩周温泉)		
視察15分(降車し橋の上から視察)	・摩周大橋から直轄区間の上流側を視察	P14
13:19 摩周大橋 出発		
バスで移動(約3km、10分)		
13:29 鐺別川合流部付近 到着		D45 5-
視察13分(降車し視察)	・釧路川の鐺別川合流部(上流)付近の状況視察	P15 ~ P2
13:42 鐺別川合流部付近 出発		<u> </u>
バスで移動(約8km、11分) 13:53 南弟子屈橋 到着		
13:53 曽寿于凪橋 到看 視察2分(バスの中から徐行し視察)	・河床低下状況の視察	P21 ~ P2
祝祭2万(八人の中からほけし祝祭) 13:55 南弟子屈橋 出発	バルルドルグステ	- Z ~ PZ
バスで移動(約17km、19分)		I
14:14 ときわ橋 到着		1
視察5分(バスの中から徐行し視察)	・ときわ橋から風雲橋の桁下高不足、径間長不足の状況視察	P25 ~ P2
14:19 ときわ橋 出発	= = 1 10 10 10 10 10 10 10]
バスで移動(約3km、5分)		1
14:24 北海道標茶高等学校到着		
་་ཕ་།ᡧ생은(家水)인サナ伙判目		L
4.40 \$4년에면비갓남주무스 명상		ı
14:40 第4回釧路川流域委員会 開始	場所∶北海道標茶高等学校	
16:40 // 終了·解散		
バスで移動(約47km、70分)		



Page-1

現地視察地点の現状と課題

視 察 地 点	視察箇所の説明
幣舞橋周辺環境整備箇所	幣舞橋周辺環境整備箇所の状況視察。幣舞橋は「ふるさとの川整備事業」の起点であり、幣舞橋~久寿里橋は、「にぎわいと 交流のエリア」として右岸に「ぬさまい広場」、「中央広場」、左岸に「おおかわ広場」、「ふれあい広場」の整備が進められて いる。
横堤	釧路遊水地事業の一つである「横堤」について視察。横堤は、左右岸築堤から垂直に堤防を突き出し河道を狭窄することで流 下能力を減少させ、遊水地の調節効果をより上げるためのものである。道内の河川では釧路川だけで見られる調節施設である。
岩保木水門	釧路遊水地事業の一つである「岩保木水門」について視察。旧岩保木水門は昭和5年の新釧路川開通の際に作られたものであり、老朽化が進んだため平成3年に新岩保木水門に改築された。旧水門は新水門の改築によって河川管理施設としての機能を失ったが現在も残されている。
カヌーポート細岡駅	カヌーポートの利用状況の視察。細岡地区にカヌーの乗降がし易いように釧路川に斜路と広場が整備されている。釧路川のカヌー利用者は年間約 12,000 人程度と推定されている。
茅沼地区旧川復元箇所	「釧路湿原の河川環境保全に関する提言」の施策項目の一つである「茅沼地区の旧川復元」箇所について視察。茅沼地区は、昭和 50 年代に直線化された河道に切り替えられたが、本来流れていた蛇行河道に復元することによって湿地の回復や、湿原らしい景観及び生物の生息・生育環境を創出し、合わせて湿原に流入する土砂の抑制を期待する。
五十石橋	五十石橋周辺の河道内樹木の繁茂状況について視察。オソベツ川合流点から五十石橋は釧路川で河道内樹木が多く繁茂しており、洪水流の流下に支障をきたしている区間である。
摩周大橋	直轄上流端近傍に架かる摩周大橋より周辺を視察。摩周大橋は直轄上流端の約 400m 下流に位置し、その下流は弟子屈市街地であり、それより上流は自然が多く残る区間である。また、摩周大橋周辺にはカヌーポートと河跡湖を利用した水郷公園が整備されている。
鐵別川合流部付近	弟子屈市街地の護岸状況の視察。弟子屈市街地は昭和 49 年から 56 年にかけてブロック積護岸により整備されている。全体的に護岸は両岸高さ 3m で切り立った勾配 1:0.3 で施工されているため、人工的な印象を受ける区間である。また、約 20 年経過した現在、区間全体にひび割れも確認されている。 釧路川本川で唯一の床止め設置箇所(合計 3 カ所)のうち、鐺別川合流点付近にある床止めを視察する。床止めのブロックは、当初河床全体に設置されていたが、その後、中央部分を取り除いた形状に変更されている。
南弟子屈橋	南弟子屈橋周辺の河床低下状況の視察。南弟子屈橋周辺は昭和 55 年前後に捷水路掘削により直線化され、その後河床洗堀により河床低下した区間である。現在は、おおむね河床を維持している状況である。
風雲橋	常盤橋より風雲橋の桁下高不足、径間長不足の状況視察。風雲橋は、昭和 25 年に径間長 20m で架設され、桁下高は 0.70m(必要な桁下高は 1.5m)となっており桁下高不足橋梁である。

8:40 釧路川 幣舞橋周辺環境整備箇所 到着 視察10分(降車し視察)

8:50 釧路川 幣舞橋周辺環境整備箇所 出発

幣舞橋周辺環境整備箇所の状況視察















ふるさとの川整備事業起点 河口から 1.5km 程上流 潮位の影響を受ける区間であり、流れは緩やか。 水面は河川区域であると同時に港湾区域となっている。 市街地部であり、河岸は左右岸共に物揚場となっている。 右岸築堤施工済み

平成 13 年度から、ふるさとの川推進懇談会を開催し、地域 住民の意見を反映しながら堤防の整備を進めている。



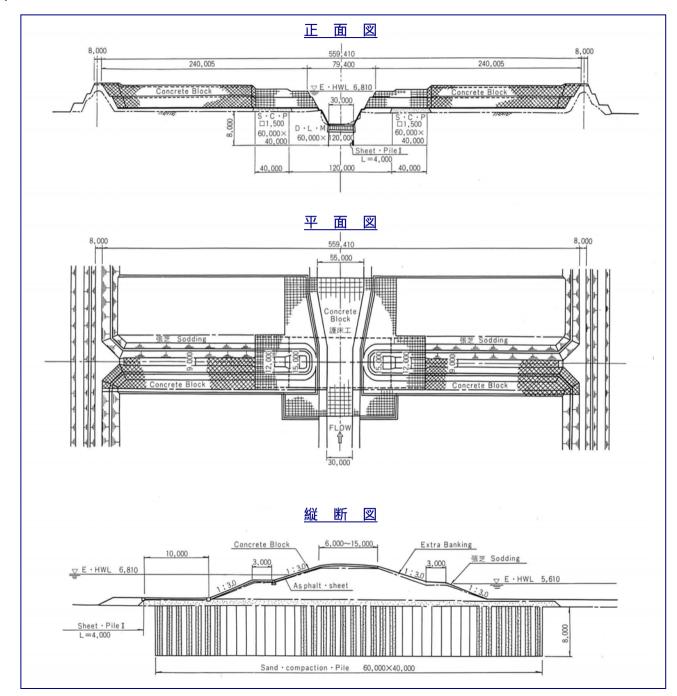


9:16 横堤 到着 視察箇所 視察2分(バスの中から) ・横堤の状況視察 9:18 横堤 出発 . / /// 3/8 選出地党総略(1約15を課題 高車高黒生200km/g ---1200 遊水地の効果は、流入量 遊水地事業の内、横堤設置箇所 3,300m³/sを 2,100m³/s調節し下流 河口から 7.4km 程上流 に 1.200m³/s流下させるものであ 流れは緩やか る。それぞれの効果は、自然調節 周辺は湿原域となっている により 3,300m³/sを 1,620m³/sに調 自用機能・機能がGL・場合) 基本基本のJMON(を一上版) 横堤が機能する洪水は約300m3/s以上(5年に1回の洪水程度) SEAMER. 節し、横堤によりさらに 420m³/s 昭和55年より建設開始 調節し下流に 1,200m3/s流下させ る。 様様がある場合 機能がない場合 下选择の表下数力 1,00m/s 遊水地の効果概念図 横堤 横堤は河口から 7.5 kmの 地点に遊水地出口の河道を 左右岸築堤から直角に堤防 を突き出し河道を狭窄し、 流下能力を減少させる方法 である。これにより、洪水 を 420m³/s調節し下流の河 道に安全な流量である 1,200m3/sを流下させる。横 堤により計画流量が流下し た場合に横堤がない場合と 比較して、湛水位が 60cm上

横堤平面図

昇する。

横堤3面図



Page-5

横堤現地状況 ~遊水地事業について~

~ 遊水地事業の概要 ~

釧路遊水地事業は、釧路湿原の洪水調節機能を高め下流部の洪水被害を軽減するものである。釧路湿原は、大雨の時に水量を一時的に取り込み下流に大量の水が一気に流れ出すのを調整する「自然の遊水機能」を持っている。

しかし、大洪水の時にはこの自然の遊水機能だけでは不十分であり、もう少し湿原内に水を溜め込まなければならない。この自然の遊水機能を高めることで、下流にある市街地を洪水の被害から守るものである。

現在計画されている主要な工事は以下の通りで、この内横堤の建設、左右岸築堤の嵩上げ、岩保木水門の改築が完了している。

遊水地諸元

·遊水地調節量 3,300m³/s 1,200m³/s(2,100cut)

・貯水面積 91.60km² ・貯水容量 141,160×10³m³

・貯水位 EL6.81m

・湛水時間 87hr (水位が 3.5m 以上となる時間)

釧路遊水地事業

横堤の建設

左右岸築堤の嵩上げ

岩保木水門の改築

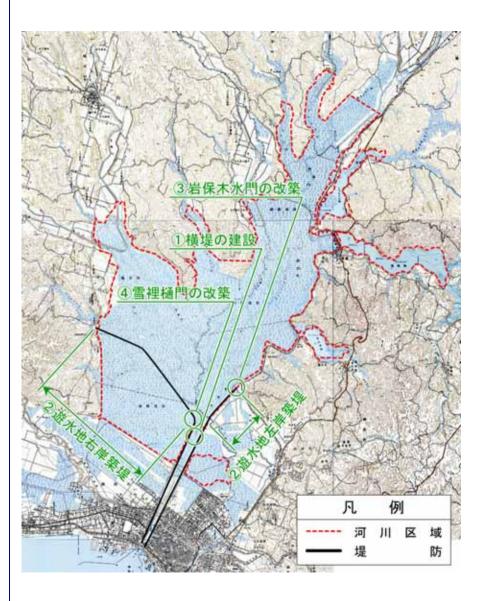
雪裡樋門の改築



流域を洪水から守る

釧路川の豊かな水は古くから人々の生活ときってもきれない 関係であり、釧路市の発展も釧路川なしでは考えられない。

釧路川は一度氾濫するとその被害は莫大で、今までも幾度となく貴重な財産や人命・人々の夢を奪い去ってきた。しかし、70年余りに及ぶ治水事業の努力により、洪水・氾濫も少なくなり今回の横堤の建設によりさらに安定したものとなり、流域の発展に貢献するものとなる。



9:26 岩保木水門 到着 視察3分(バスの中から)

9:29 岩保木水門 出発

岩保木水門状況視察



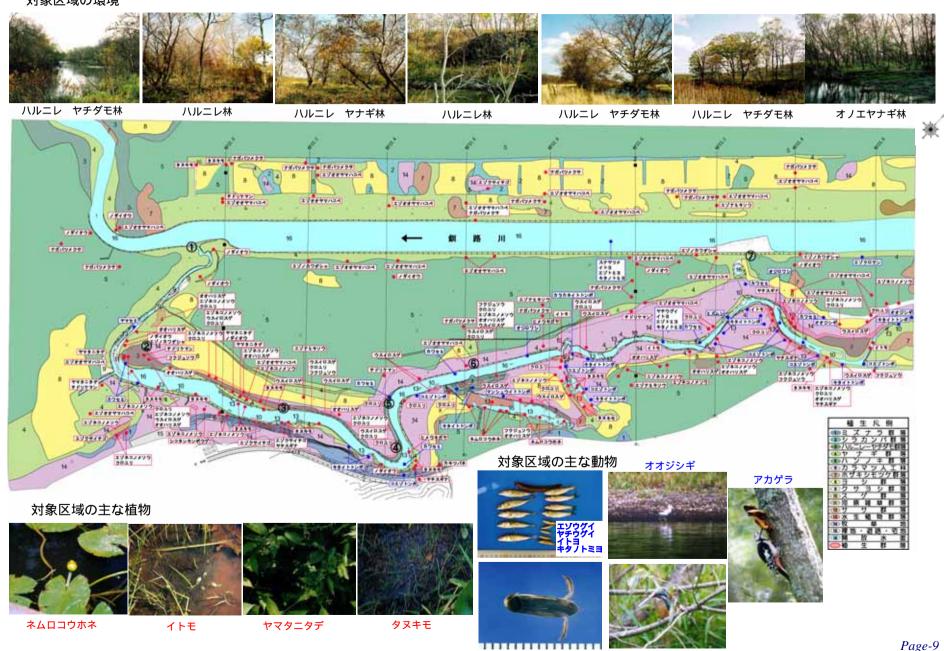


10:24 茅沼地区 旧川復元箇所 到着 視察50分

11:14 茅沼地区 旧川復元箇所 出発

・ 茅沼地区 旧川復元箇所の状況視察

対象区域の環境



ミズムシ

カワセミ

旧川復元試験(茅沼地区)の概要

釧路川下流に位置する釧路湿原は、我が国を代表する傑出した自然環境の一つであり、野生生物の重要な生育・生息の場となっています。また、人間にとっても水がめとしての保水・浄化機能、遊水池としての洪水調節機能、地域気候を緩和する機能等重要な価値や機能を有しており、将来にわたって保全すべき貴重な財産です。しかし、近年、流域の経済活動の拡大に伴い、湿原面積が減少し植生の変化が見られるなど、その保全と回復が急務となっています。

平成13年3月に提起された「釧路湿原の河川環境保全に関する提言」では、その具体的な施策の一つとして、「蛇行する河川への復元」が挙げられています。これは、過去に直線化された河川について、可能な限りもとの蛇行した河川へ戻すことにより、生物の生息・生育環境、湿原らしい景観の復元や湿原植生の再生を図り、合わせて湿原に流入する土砂の抑制を期待するものです。



旧川復元イメージ

茅沼地区旧川復元の目的

湿原本来の生物生息環境の復元

蛇行河川に復元することで多様な流れを持たせ、魚類等の休息場の確保や採餌環境の復元を図る。

湿原景観の回復

湿原らしい河川の姿として蛇行河川への復元を図る。

湿原植生の再生

地下水位の上昇と冠水頻度を増やすことで、湿原本来の湿性植物群落 の再生を図る。

[蛇行する河川に復元することによって期待される副次的効果]

湿原内への土砂流入の防止

蛇行区間等での洪水の氾濫により、下流湿原内への土砂流入の抑制を 期待する。

【茅沼地区旧川復元の基本方針】

- ・湿原内の河川特有の蛇行河道と生物生息環境の再生を目指す。
- ・農地などの現在の土地利用に対し影響(地下水位上昇等)を与えない方法とする。
- ・下流湿原内への土砂流出の少ない復元を目指す。
- ・計画や事業実施にあたっては、住民参加、地域との連携を図る。



【リファレンスサイトの調査】

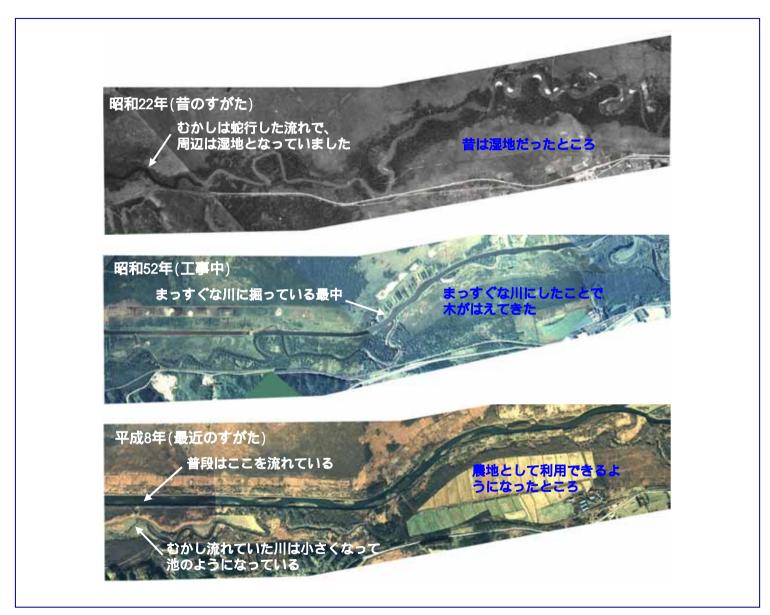
・下流の湿原内河道部に比較対照区を設定し、指標となる環境情報を調 査取得する。

景観、植生、土壌、地下水位、河床形態魚類は先行調査済み。



【モニタリング調査計画】

調査・検討の概要



茅沼地区の施策実施イメージ

11:26 五十石橋 到着

視察2分(徐行しバスの中から視察)

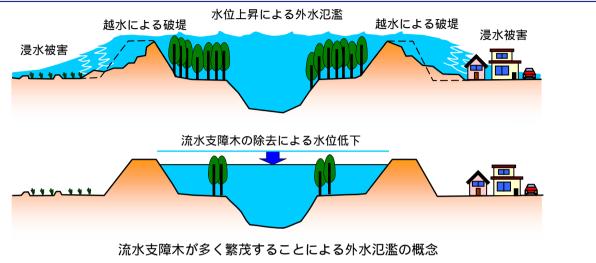
11:28 五十石橋 出発

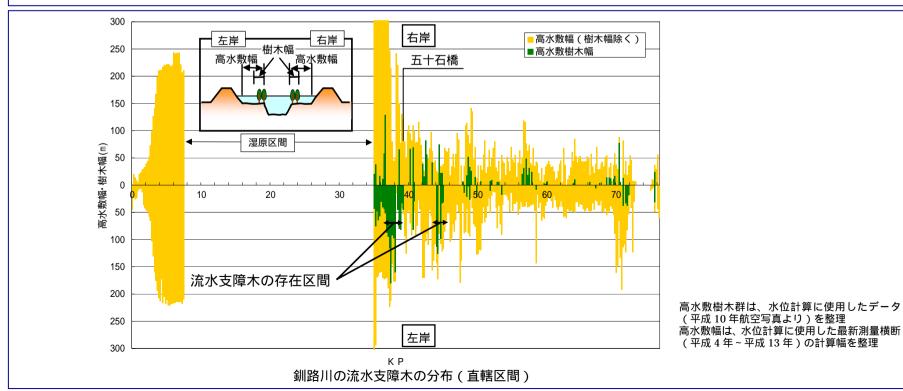
・河道内樹木の繁茂状況の視察



五十石橋周辺の河道内における流水支障木について

五十石橋周辺は、河道内に樹木が多く繁茂し、洪水流の流下に支障をきたす区間である。この場合、洪水時に河道内の水位が高くなり、水位が堤防を越えると破堤を生じ洪水流が家屋や畑などへ浸水して大きな被害が発生する。洪水時の水位低下を図る対策として、流水支障木を除去する方法がある。





13:04 摩周大橋 到着(道の駅 摩周温泉) 視察箇所 視察15分(降車し橋の上から視察) 13:19 摩周大橋 出発

・摩周大橋から直轄区間の上流側を視察

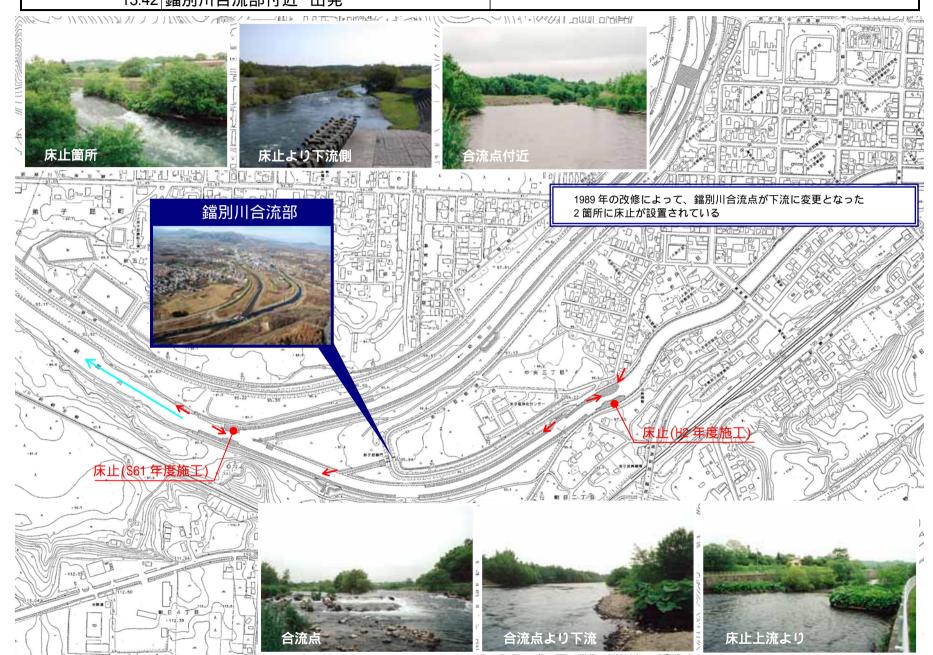
" NOW ON THE WAY IN THE

釧路川の直轄上流端付近 河口から 75.4km 程上流 摩周大橋より下流は弟子屈市街地で、上流は自然が多く残る 下流右岸に河跡湖を利用した公園がある 上流左岸にカヌーポートがあり、主に屈斜路湖からのカヌー利用の終点となっている 摩周大橋 上流側 下流側 カヌーポート 河跡湖を利用した水郷緑地公園

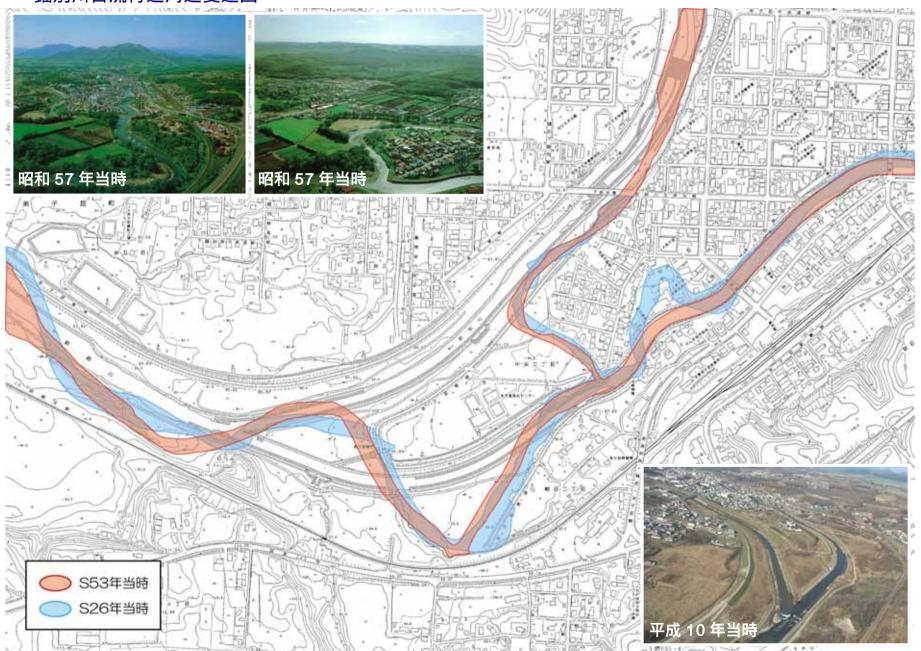
13:29 鐺別川合流部付近 到着 視察13分(降車し視察)

13:42 鐺別川合流部付近 出発

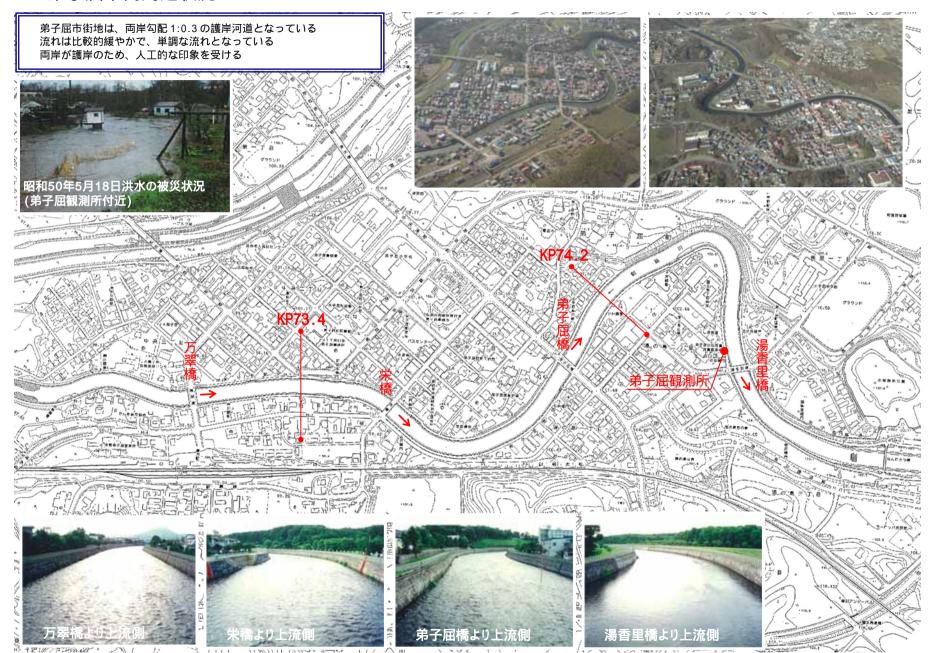
・釧路川の鐺別川合流部(上流)付近の状況視察



鐺別川合流付近河道変遷図



弟子屈市街河道状況

















完成

弟子屈地区の現況

弟子屈市街築堤工事は、昭和49年に着手され昭和56年に完成した。

現地の利用状況は、平成9年度河川水辺の国勢調査(空間利用実態調査)において、弟子屈地区の年間利用者数は約9,500人と推定されている。その内、利用形態としては散策が約7,000人と多数を占めている。

・護岸部(写真-1)

弟子屈市街部に整備されている高さ 3m、勾配 1:0.3 のブロック積護岸は、区間全体にひび割れが確認されている。

・天端・周辺部(写真-2)

管理用通路のひび割れは、KP74より上流の左岸側に確認されている。KP74.2付近のひび割れは比較的新しいものが目立っている。また、過去に天端陥没が発生している箇所が KP74.2 に存在しているほか、直下流に電探調査により空洞化の可能性がある箇所が連続して存在している。更に、国立弟子屈病院周辺の天端は全体的に川側へ傾斜している傾向が見られている。なお、KP73.6 栄橋から KP74.2 付近の右岸側天端は、インターロッキング(写真-3)により整備されており、この地区の特殊堤の目立った変状傾向は特に認められていない。



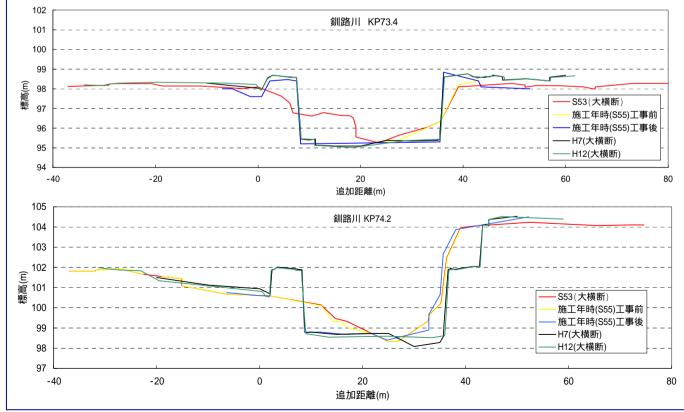


写真-2

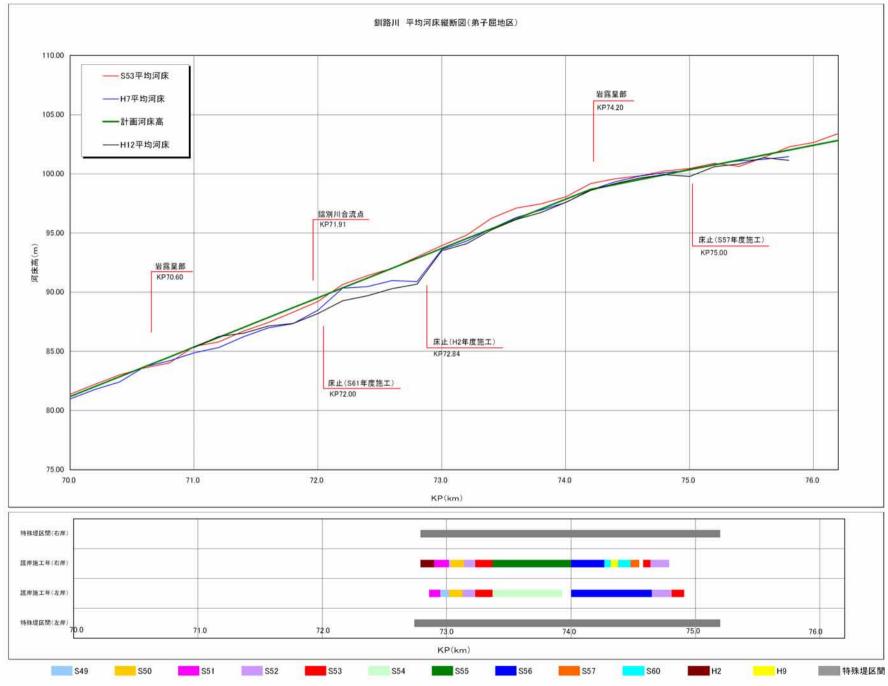


写直-1

写直-3



護岸施工前は緩やかな勾配と河道内の 変化(浅い箇所、深い箇所)があったが、 護岸施工後は急勾配のブロック積護岸 となり、河道内の変化も小さくなった。



13:53 南弟子屈橋 到着 視察箇所 視察2分(バスの中)

視察2分(バスの中から徐行し視察)

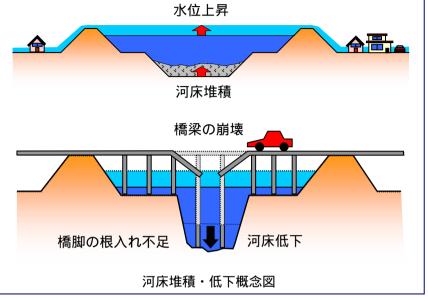
13:55 南弟子屈橋 出発

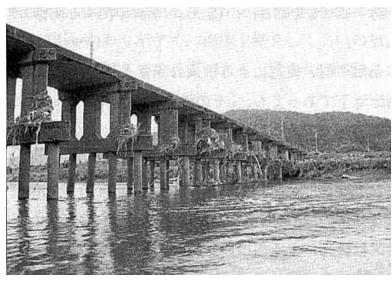
・河床低下状況の視察



釧路川の河床状況について

河床の急激な低下は、河川構造物の基礎の崩壊や流下能力の低下、河床材料の平均粒径や土粒子の分布構成の変化を起因とした河川環境への影響などといったさまざまな問題をもたらす。



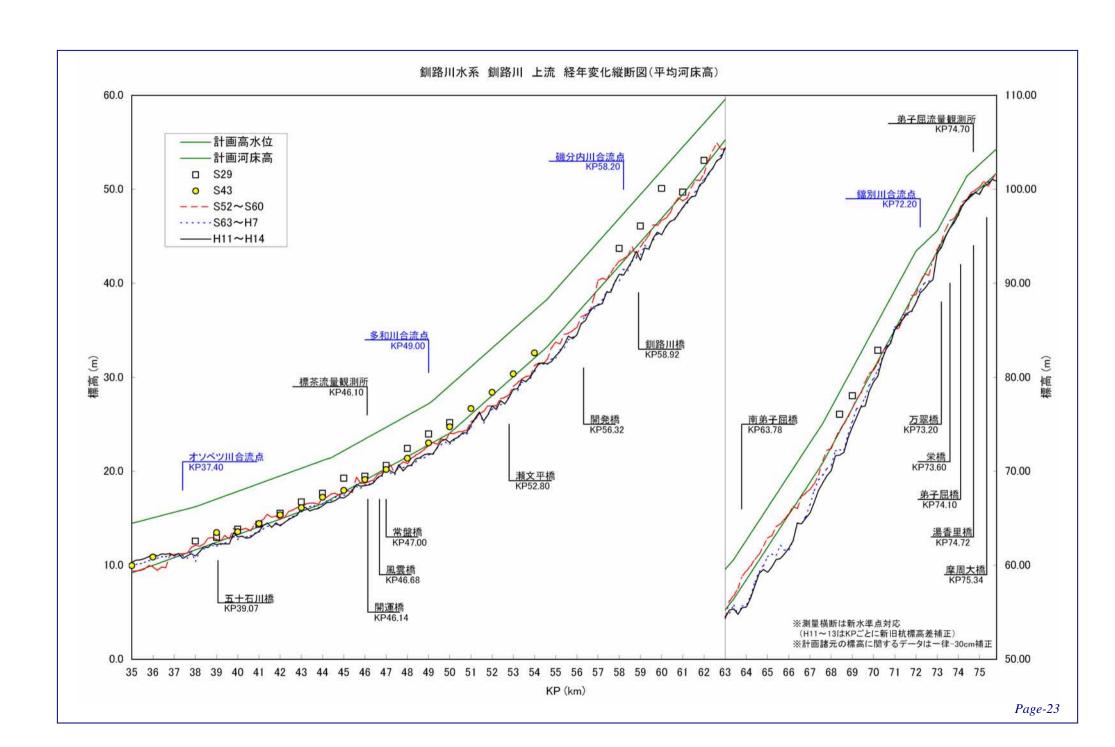


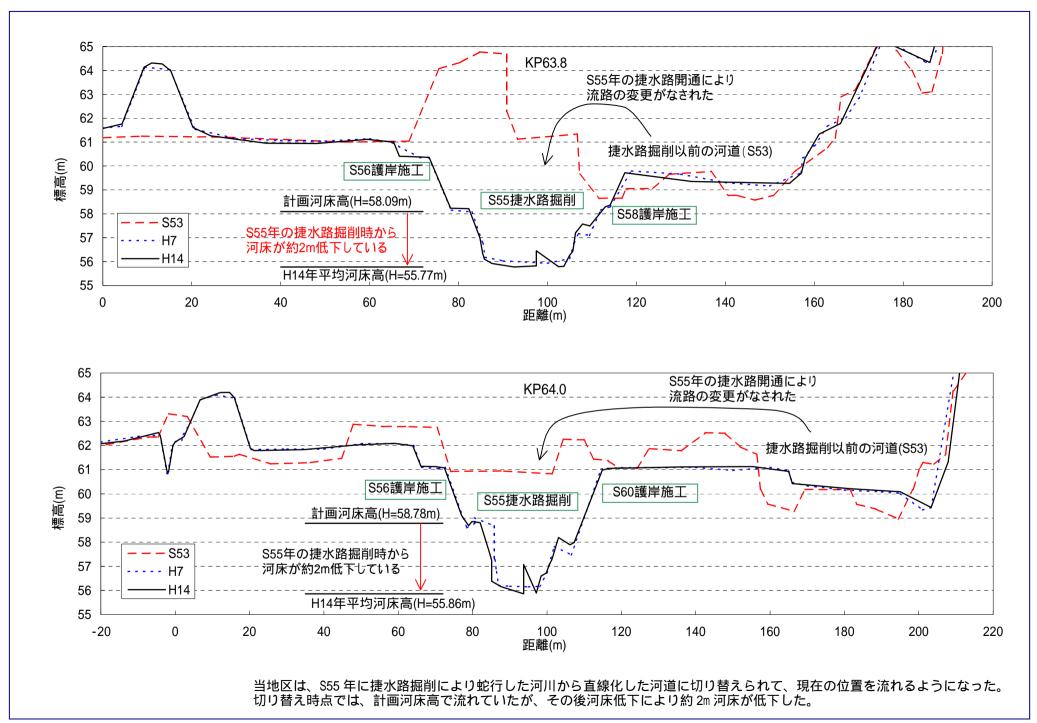
河床低下により危険な状態にある橋梁の例

出典:平成12年 改定 解説・河川管理施設等構造令 (発行;社団法人 日本河川協会)



護岸基礎部の河床低下による護岸被災事例(久著呂川)





14:14 ときわ橋 到着

視察5分(バスの中から徐行し視察)

14:19 ときわ橋 出発

・ときわ橋から風雲橋の桁下高不足、径間長不足の状況視察



風雲橋の桁下高不足・径間長不足状況について

